S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)
H25年9月11日

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況（2013.9.6 現在）

埼玉県で分離され衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は、2013 年 9 月 6 日現在で 106 株です。昨年同時期の検出数 58 株と比較してほぼ倍増となっています。この検出数の増加は、県内で発生した 2 例の保育所での集団感染事例の影響と考えられます。感染者の内訳で見ると下痢･腹痛などの症状を呈した有症状者からの分離が 71 株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が 35 株でした。発症日で見た月別の分離数では、1 月から 4 月まで 1 株でしたが、5 月に 8 株、6 月に 15 株、7 月に 30 株、8 月に 17 株と分離株数が増加しています。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後も続くことから注意が必要です。分離されている血清型を表に示しました。O 血清型で見ると例年通り O157 が 65 株と最も多く、次いで O26 が 32 株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2013.9.6 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	40
O157:H7	VT2	23
O157:H7	VT1	1
O157:H－	VT2	1
O26:H11	VT1	32
O103:H2	VT1	1
O111:H－	VT1	1
O121:H19	VT2	2
O145:H－	VT2	3
OUT:H－	VT1	1
OUT:H－	VT2	1
合計		106

衛生研究所では、PFGE 法を用いた DNA 切断パターンによる型別を行っています。9 月 6 日現在、血清型で最も多く分離された O157:H7 では 59 株の型別が終了し、37 型に分けられています。集団感染事例や家族内感染での集積以外に、異なる保健所管内での分離株が同一パターンを示す例もあり、共通感染源の可能性も考えられますので、今後も注意していく必要があります。

今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。